

## 日々、少しずつ前進

生命環境科学研究科 准教授 リントウルオト 正美

息子が小さかった頃、「お母さんの仕事はコンピューターに向かっ  
て話すこと」と言われていましたが、確かに一日コンピューターの前で  
仕事をしています。触媒や機能性材料の設計、反応機構や特性と構  
造や電子状態との関連性について量子化学的、計算化学的手法を用  
いて研究を行っております。金属や酸化金属表面における触媒反応  
に関する研究から始まり、現在はタンパク質を対象とした研究が中  
心となってきました。もともとは物理化学が専門分野で生物学は未  
知の領域で、新しい分野に踏み込んでいくのは勇気がいりましたが、  
日々新しい発見で楽しんで研究を進めております。生物分野に踏み  
込んでいくきっかけをくださり背中を押してくださった先生には非常  
に感謝しております。振り返ると、人生の様々な分岐点で様々な人との  
出会いがあって、今の自分があるのだな、と思います。

息子は保育所に最年少で入所しました。ベテランであるはずなの  
に年長さんになっても毎朝大泣きするので保育士さんに抱いてもらい  
バイバイしていました。一時期は「こんなに普通泣く？」と悩みました。  
子育ての先輩や保育士さんに、子供にもその日一日を始めるスイッチ  
みたいなの、儀式みたいなのがある、心配ないと教えていただき  
ました。うちの子供も私がいなくなると何事もなかったかのように遊

び始めていたようです。少しばかり個性の強い息子に辛抱強く付き  
合ってくれた保育士さんや保育所に出会えたこと、アドバイスを頂け  
る人が身近にいたことはとても幸せだと思います。

そんな息子も高校生となり、上級生に交じって友達と食堂で食べ  
るから弁当はいらないと言われたときには大喜びしてしまいました。  
しかし、しばらくすると食堂のメニューにも飽き、「やっぱり弁当作っ  
てほしい」と言われて、「面倒くさいなあ」といながら、実は内心  
ちょっと喜んでいました。少し前までは反抗期で唸っているのか、返  
事をしているのかわからないような対応だったのに「弁当の方がな、  
やっぱりおいしいねん。」と言われて喜んで自分の単純さにも驚き  
ますが、子供がうまく親をおだてるようになったのにも驚きました。

もともと夫はアウトドア派で休日は子供と二人きりでしたが、最近  
は子供もさっさと出かけてしまいます。もともとインドア派な私は家  
事や飼い犬の世話が済むと、冬場はあみもの、夏場は水泳をしてい  
ます。編み物の暗号のような説明書を読み解きながら、少しずつ前  
進していき一つ一つのものが完成したおりの達成感水泳の目標を達成  
したときの感覚と似ているのかもしれない。日々の生活も仕事もひ  
とつひとつ目標を達成するように前進していきたいと思えます。

## りんとうるおと・まさみ

京都大学大学院工学研究科博士後期課程の途中で京都府立  
大学に赴任してきました。今年で20年になります。あまり年が  
変わらなかった学生たちが今では自分の子供と年が変わらなくな  
ってしまいました。光陰矢のごとし。。。



Report / 報告

## 大学院生の現状とニーズ調査

**目的：** 若手研究者支援事業（あおいプロジェクト）における研究者の裾野拡大の基礎データとするために、本学に在籍する大学院生を  
対象に本学大学院生の研究生活の現状ならびに支援ニーズの把握を目的として実施しました。

**調査時期：** 平成 26（2014）年 5月 15日（木）～6月 6日（金）

**質問項目：** ①本学大学院生の進学理由 ②研究生活の現状、研究上の困難及び支援ニーズ  
③希望進路 ④男女共同参画推進室に対する期待

**回収率：** 40.5%（125名）文学研究科 31.3%、公共政策学研究科 39.3%、生命環境科学研究科 42.8%

## 調査結果概要（主なもの）

## 本学の研究環境について（Q3）

「あてはまる」と回答したものが多し順に「研究をするうえで適切  
な指導を受けることができる」（全体 90%：男性 89%、女性 90%）、  
「性別に関係なく、自分の能力を発揮できる環境にある」（全体  
79%：男性 76%、女性 81%）、「学内に研究や進路について相談  
できる人がいる」（全体 76%：男性 80%、女性 74%）と肯定的  
な回答が多数を占める。

## 大学院生の抱える悩みと相談相手について（Q4、Q5）

「悩んでいる」という回答の割合が高かったのは、順に「研究（論文）  
の進め方」（65%）、「希望進路（就職先）に就けるかわからないこと」  
（63%）、「研究における自分の適性」（58%）、「経済的なこと」  
（57%）、「希望進路（就職先）が明確にならないこと」（56%）であ  
った。カテゴリー別に見ると、「悩んでいる」という回答の割合が高  
い順に「経済面」、「進路」、「研究」、「健康面」、「人間関係」であ  
った。総じて「短期的」な「現在」の悩みが多いことが窺われた。  
性別による違いをみると、男女間で性別によって差が見られた項  
目は、「希望進路（就職先）に就けるかわからないこと」で、「悩

んでいる」と回答した者の割合は男性が59%、女性が67%であ  
った。さらに、「希望進路が明確にならないこと」でも、「悩んでいる」  
を選択した回答者は男性が45%、女性が65%であり、女性の方  
が高くなっている。

## 男女共同参画推進室に期待する支援（Q7、Q8）

将来的なニーズも含めると「経済面での支援」を利用したいとい  
う割合が79%と最も高くなっていた。続いて「研究支援のための  
スキルアップ講座」を必要とする者の割合が高く、その中でも、「プ  
レゼンテーション能力」（77%）、「英語論文作成」（74%）、「調  
査研究スキル等」（67%）の、研究活動に直結するスキルを向上  
させることを望んでいる割合が高くなっていた。  
また、「健康面（女性の場合は女性特有の悩みも含む）の支援」や「進  
路・就職相談窓口」については、「今必要がある」と答えた回答者  
がそれぞれ18%、27%でニーズが低いように見られるが、今後必  
要となったときの将来的ニーズを含めて「利用したい」という割合は、  
61%、62%と高い。これはニーズとしては顕在化していないが、将  
来的な人生設計におけるリスク要因と捉えているものと考えられる。



## Newsletter

京都府立大学 男女共同参画推進室 ニュースレター

Vol.

05

2015.08

管理職セミナーを開催しました  
「大学マネジメントと女性研究者支援」

KIT 男女共同参画推進センターでの女性研究者研究活動支援事業の3年間  
（平成 24～26年度）の活動報告及び大学の機能強化に向けた全学システ  
ム改革について、大学マネジメントの視点からの女性研究者支援事業を中  
心にお話し頂きました。京都工芸繊維大学の大学改革への熱意を感じました。

**日時** 4月27日（月）14:30～15:30

**講師** 森迫 清貴氏  
（国立大学法人京都工芸繊維大学理事・副学長・前KIT男女共同参画推進センター長）

**参加者** 本学管理職等 30名

4/27（月）  
14:30-15:305/29（金）  
10:00-12:00女性研究者研究活動支援事業  
アドバイザー委員会を開催しました

本学では、女性研究者研究活動支援事業に係る事業評価に関して、外部評価委員によるアドバイザー委員会を設置しました。  
平成 27年 5月 29日（金）10:00～12:00、今後の事業推進と展開を図ることを目的として4名のアドバイザー委員が事前に記入し  
た評価票に基づき講評・意見交換を行いました。第2回は2月頃に実施を予定しています。

## アドバイザー委員会委員

大柴 小枝子氏（国立大学法人京都工芸繊維大学大学院工学研究科電子システム工学部門教授、学長補佐（男女共同参画担当））

大谷 学氏（京都府府民生活部男女共同参画監）

渋谷 典子氏（特定非営利活動法人参画プラネット代表理事）

多和 常雄氏（京都新聞社編集局文化部長代理）

## 総評：

女性研究者への支援は、まず環境整備が重要との視点から、推進体制、人的・物的整備、研究支援員制度、保育支援プログラム、両立相談、  
女性メンター制度、キャリアアップ支援など多様な取組を行い、1年半で着実に実績を上げています。オープンキャンパスや夏休み学童保育など  
補助対象外の事業にも積極的に取り組む姿勢が見え、素晴らしい取組です。ただし、女性研究者の上位職登用への数値目標達成には困難が予  
想されます。今後も、事業を継続することが重要です。

全学的なコミットメント及び推進体制に関して、大学のなかで意思決定ができるメンバーが委員会及び推進室に所属していることは高く評価でき  
ます。本事業は全学的なコミットメントを更に浸透させていくことが必要です。他機関でも中間層の意識改革が一番大きな課題です。中間層に向  
けた意識改革の仕組みづくりを行っていただくことを期待します。

## 平成27年度男女共同参画推進委員会 委員

小沢 修司 副学長  
男女共同参画推進委員会委員長  
男女共同参画推進室長  
公共政策学部教授（意識啓発プロジェクトリーダー）

渡邊 伸 文学部長

野口 祐子 男女共同参画推進室副室長、文学部教授  
（研究者両立支援（かつらプロジェクト）リーダー）

吉岡 真佐樹 公共政策学部長

朝田 佳尚 公共政策学部准教授

渡部 邦彦 生命環境科学研究科長

高野 和文 生命環境科学研究科教授

リントウルオト 正美 生命環境科学研究科准教授  
（若手研究者育成（あおいプロジェクト）リーダー）

小西 貴彦 事務局長

編集・発行：京都府立大学男女共同参画推進室

〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町1-5（1号館3階） TEL：075-703-5143 E-mail：danjo@kpu.ac.jp HP：www.kpu-sankaku.jp

文部科学省科学技術人材育成費補助事業 女性研究者研究活動支援事業（一般型）



## 知っていますか？ LGBT

最近、ニュースなどで「LGBT」について、耳にしたり、目にする機会が増えてきました。民間の調査（電通総研 2015）では、人口の7.6%はLGBTというデータもあり、実はとても身近な存在です。でも、周囲や社会の偏見や無理解で、うまく伝えられず、苦しんでいる人たちもいます。LGBTを含む「みんな」が学びやすい環境・働きやすい職場づくりをめざして、「LGBT」「セクシャルマイノリティ（性的少数者）」「多様な性」について、知ることからはじめましょう。

### LGBTとは？

- L レズビアン（女性同性愛者）**  
（大まかな）定義：同性を好きになる女性
- G ゲイ（男性同性愛者）**  
（大まかな）定義：同性を好きになる男性
- B バイセクシャル（両性愛者）**  
（大まかな）定義：性別にかかわらず、異性を好きになることも同性を好きになることもある人
- T トランスジェンダー（性別越境者）**  
（大まかな）定義：生まれたときに法律的／社会的に割り当てられた性別にとらわれない性別のあり方を持つ人（性別違和、性同一性障害者を含む）

### LGBT かどうかは、見た目（服装、しぐさ、言葉遣い）では分かりません

- ▶ 性的少数者は LGBT だけではありません。多様なアイデンティティの人がいます。
- ▶ 性のあり方は本人の意思で変えられるものではなく、民族や宗教などと同様に、その人を構成する重要な要素です。



本記事作成にあたっては、特定非営利活動法人虹色ダイバーシティ及び「いのち リスペクト。ホワイトリボン・キャンペーン」の協力を得ました。



出典：「いのち リスペクト。ホワイトリボン・キャンペーン」パネルより抜粋  
制作協力団体：やっぱ愛ダホ！idaho-net（東京都平成24年度地域自殺対策緊急強化補助事業助成）

### 周囲ができることを考えよう

- 正しい知識を持つ、学ぼう。
- 「いない」のではなく、周りに「存在する」前提で考えてみよう。
- 差別的な呼び方（ホモ・オカマ・レズ・オネエ）に注意しよう。
- 差別的な発言を見聞きしたら、見過ごさないようにしましょう。

## 短信

## 参画推進室

## 男女共同

## 活動報告



### 「京都府立大学 ロールモデル集 Vol.1 ~女性研究者・卒業生編~」刊行しました



在校生、高校生に、本学女性教員、卒業生、大学院生等の生の声を届けたいという意図で、ロールモデル集を作成しました。子育て真っ最中で時間のやりくりをしながらも研究の面白さを実感している女性、企業で働いた経験を活かして研究者の道を歩む女性、重責をしながらこなす管理職、これからキャリアを積み上げていく大学院生など12名の方々の経験と生きがいをお伝えしています。今年度Vol.2を刊行予定です。

高校生、在学生等を対象にしたイベント等でご入用の方は推進室まで。

### 女性教職員の昼食会を開催しました

今年度より、月1回程度、女性ネットワークづくりを目的に、本学に勤務する女性教職員が職種を超えて交流する昼食会を開いています。前半は今年度着任された教員からの話題提供、後半は自由な歓談を行い、終始和やかな雰囲気の良い会となっています。男性の参加も歓迎です。

#### 第1回「教職員の自己紹介」

日 4月9日(木) 12:15~12:50  
参 教職員35名 協 京都府立大学法人労働組合府大支部

#### 第2回「日本での人生の旅」

日 5月28日(木) 12:15~12:50  
参 朴 恩榮講師(生命環境科学研究所 食保健学科) 参 教職員22名

#### 第3回「ことばを教える、こころを育む」

日 7月16日(木) 12:15~12:50  
参 細越 響子講師(文学部 欧米言語文化学科) 参 教職員19名

### 研究支援員制度(前期)利用者が決定しました

3月10日の男女共同参画推進委員会で12名(女性10名、男性2名)の支援対象者(研究者)が決定しました。利用内訳は、子の養育10件、介護3件です。研究支援員(本学大学院生等)は18名(女性16名、男性2名)です。

## 大学自主事業

### 京都府立医科大学病児保育室「こがも」の利用を、教職員へ拡大しました

教職員のニーズが大きかった京都府立医科大学病児保育室「こがも」の利用ですが、2015年6月より、文部科学省 女性研究者研究活動支援事業の対象となる研究者の子どもに加えて、教職員5名(女性3名、男性2名)の子どもが利用可能となりました。

日=日時 講=講師 ス=スピーカー 参=参加者 協=協力

## 若手研究者育成(あおいプロジェクト)

### 研究力向上セミナー

科研費を中心とした競争的資金獲得のノウハウについてお話し頂きました。申請のステップや準備について、さらに評定基準や申請書を書く上で注意すべきポイント等を選考する側の視点を含めて説明いただきました。後半には、本学教員から提供された実際の申請書を題材に、公開添削を行っていただきました。

※第2回「研究資金獲得セミナー」はビデオ撮影していますのでご入用の方は推進室まで。

#### 第2回「研究資金獲得セミナー」

日 3月27日(金) 13:00~14:30  
講 塩満 典子氏(宇宙航空研究開発機構(JAXA)男女共同参画推進室長・新事業促進センター参事) 参 24名(学生・院生8名、教職員16名)

#### 第9回あおいセミナー

### 「現代の要請としての宗教多元主義 ~出会いと対話の大切さ~」

日 5月8日(金) 18:00~19:00 講 谷川(間瀬) 恵美氏(桜美林大学 人文系 宗教学専攻主任 准教授) 参 24名(学生、院生、教職員)

#### 第10回あおいセミナー

### 「放射能汚染土壌のメタゲノム解析 ~ウクライナ女性研究者の目線で描かれるチェルノブイリと福島未来~」

日 5月22日(金) 15:00~16:30 講 オレナ・パレニウク博士(Dr.Olena Pareniuk) 福島大学環境放射能研究所特任助教 参 20名(学生、院生、教員)  
※英語で行われました。

#### 第11回 あおいセミナー

### 「技術者を育てられる研究者になるために ~研究とときどき教育~」

日 7月10日(金) 17:50~19:00 講 西本 真琴氏(和歌山工業高等専門学校 物質工学科 准教授) 参 11名(学生、院生、教員)

※引き続き、教員からの「あおいセミナー」の企画を募集しています。

## 今後の予定

### 活動予定

#### 夏期学童保育

### 「府大キッズ Labo」

昨年、好評を博した府大の教職員のお子さんを対象にした夏期学童保育。今年は府立植物園で開催します。

日 8月4日(火) 9:00~17:00

### 科研費申請アドバイス会 (8月・9月 計2回)

本学の女性研究者等を対象に科研費申請の添削を行います。科研費申請アドバイザーは本学の名誉教授です。詳細はホームページをご覧ください。

## 編集後記

2015年度、国連ウィメン(UN Women)のHe for Sheキャンペーンパイロット事業「IMPACT10×10×10」に「世界の10大学」として、日本の大学から唯一、名古屋大学が選出されました。これまでの男女共同参画を推進する学内外の様々な施策、特に女性リーダー育成のための教育プログラムの実践等が評価されての選出です。国内外からの大学への期待を、事業の推進力に変えて基盤整備を行う同大学の姿勢に、強い感銘を受けました。